

動物は責任と愛情を持って最期まで飼いましょ

飼い主は、動物の習性などを理解し、愛情をもって飼育する「終生飼養」の責任があります。動物をみだりに殺傷、虐待、遺棄することは法律により罰せられます。

●不妊・去勢手術

繁殖を望まない、繁殖後適正に飼養することができない場合は、不妊・去勢手術を行いましょう。不妊・去勢手術をすることで性格がおとなしくなり、生殖器系の病気も予防できます。

●身元の表示を

犬には鑑札を、猫やその他の動物には名札をつけましょう。

犬の飼い主には、登録と毎年1回の狂犬病予防注射を受けさせる義務があります。

●猫の飼育は屋内で

交通事故や近隣トラブルを避けるためにも、猫は屋内で飼うことが望ましいといえます。

●犬の散歩はルールを守って

犬の散歩をするときは、必ずリードでつながしましょう。散歩中にオシッコをしてしまった時はすぐに水で流し、ふんをした時はその場に放置せずに、家まで持ち帰って廃棄しましょう。

問合せ 環境政策課内 226

どうぶつ愛護フェスティバル

～子どもも大人も一緒に考えよう、私たちと動物～

屋内行事 シンポジウムなど

日時 9月23日(月・祝) 午後1時～4時

会場 国立科学博物館(上野本館内・日本館)

屋外行事 トークイベントなど

日時 9月21日(土) 午前10時～午後5時

会場 都立駒沢オリンピック公園(中央広場)

問合せ 東京都保健医療局

環境保健衛生課

☎ 03-5320-4412

詳しくはウェブサイトへ▶



おかざき さとる
岡崎 学さん 【羽村市観光協会理事】

はむら自然友の会会長／羽村市郷土博物館登録郷土研究員

退職後、奥多摩で20年間山歩きガイドに従事した。そこで郷土史の魅力にも目覚める。コロナ収束後、羽村市観光協会理事に就任。植物や自然をこよなく愛し、郷土史にも造詣が深い。



▲カワラノギク

「調べるのが好きなんです」と柔和な笑顔を見せる岡崎さん。多摩川河川敷のカワラノギク保護に携わっている、膨大な植物の知識を持った方です。

「私は羽村生まれで、物心ついた頃から多摩川や近くの野山が遊び場でした。そのせいか植物や自然が大好きで、学生時代は生物クラブなどで植物のことを夢中で調べたものです」

昭和60年に市が「はむらの植物ガイド」という本を作ったとき、岡崎さんも植物を調査する会の一員になりました。その調査会は、後に「はむら自然友の会」の母体となり、市内の自然保護活動などを行っています。

「カワラノギクは、都内では多摩川の中流域にしか生息しません。隣の秋川にもない。絶滅危惧種の貴重な植物を羽村から絶やしたくないと思っています」

河原の一部を借りてカワラノ



ギクを育てる区画を作ったりしたそうですが、増水で流されることも度々あり、一時はほとんど見られなくなっていました。「今は観光協会の庭で育てた種をそとと撒いたりしていますが、撒いたのとは違う場所で見つかりました。最近では『大水で流されるのも自然の成り行き』とありのままを見守る気持ちになってきました」

40年近く羽村の自然を見守ってきました。植物への愛情はもはや親心のようです。

そんな岡崎さんが今、一番気になって調べているのが『指田茂十郎』さんです。明治の時期に東京府会議員を務めた、羽村の渋沢栄一とも言われる人物。青梅鉄道にも関連が深い。羽東に碑も立っています」

今年、青梅鉄道(現在のJR青梅線)開通130年。観光協会では記念事業を計画中で、岡崎さんも準備に関わっています。

「資料を細かく調べていくと、いろいろつながりが分かってきます。それが、まるで探検をしているようで楽しいですね」と、今日も資料片手に探求心いっぱいの岡崎さんです。

広報 はむら

9月1日号
令和6(2024)年

広報(はむら) 令和6年9月1日号

令和6(2024)年9月1日発行 第1124号

URL = <https://www.city.hamura.tokyo.jp/>
〒205-8601 東京都羽村市緑ヶ丘5-2-1 ☎ 042-555-1111 ⑤ 336 FAX 042-554-2921

市民公募 Photo

「お気に入りの散歩道」

撮影：村野 壽美さん

場所：阿蘇神社南側土手

撮影日：令和5年9月21日

愛情ギュッとす〜とはむら



広報はむらは再生紙を使用しています

市公式サイト



羽やすめ



X



Facebook



Instagram



YouTube



LINE

